

わくわくエンジンEXPO 実施報告書

認定NPO法人 キーパーソン21
2021年5月28日

開催の目的

認定NPO法人キーパーソン21は、20年来誰の中にも必ずある原動力のようなもの＝「わくわくエンジン®」を発見し、すべての人が自分を活かして生き生きと仕事をして生きる社会の実現に向けた活動を行ってきました。

オリジナルのキャリア教育プログラムを、学校のみならず地域や行政を通じて子ども達にお届けする中で、近年では地域創生としてプログラム実施を採用いただく機会が増え、市民がもつエネルギーの素となる「わくわくエンジン®」を発見することから一人ひとりの活躍を促進し、地域を元気にするモデルとして注目いただくようになりました。

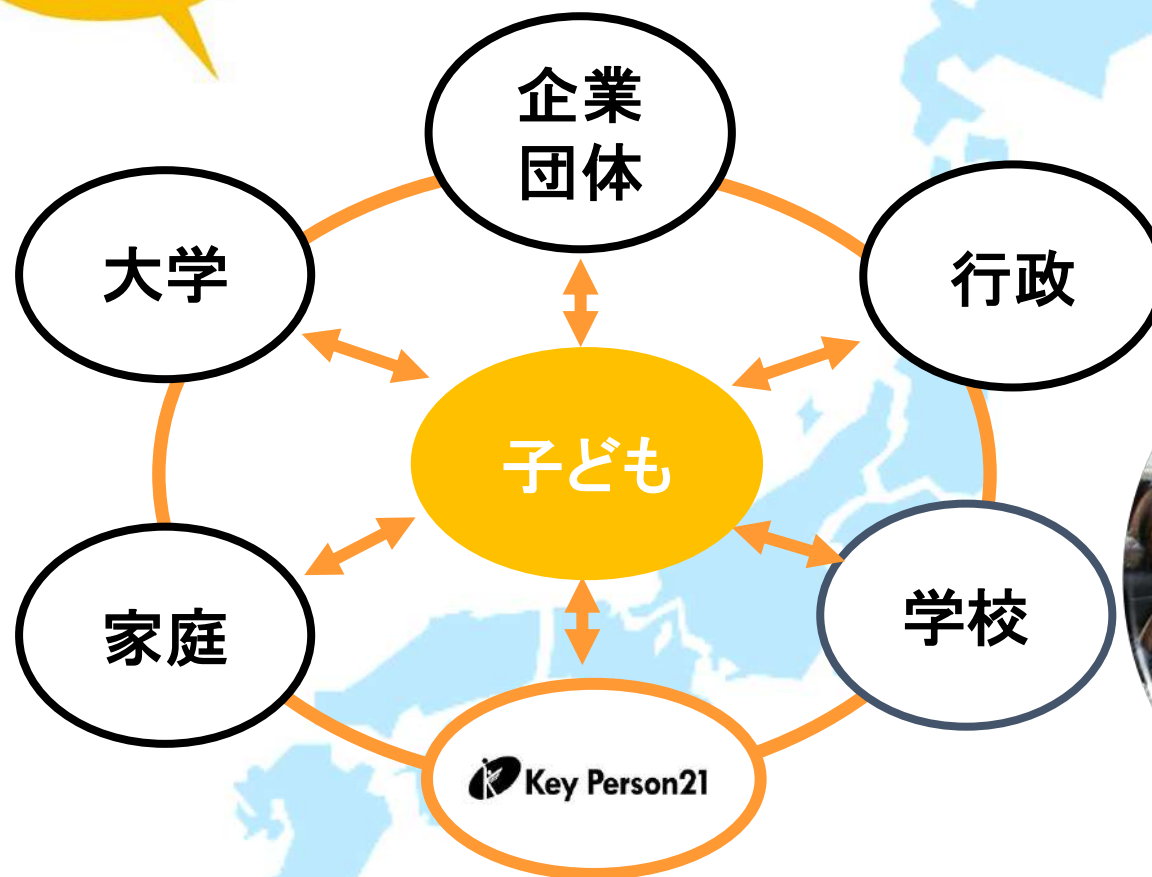
原動力を引き出され動き出した子ども達が中心となり、そのアクションを地域みんなが応援することで、地域の元気に繋がっていく。学校、PTA、NPO、企業、大学、行政の皆の元気が繋がり、そしてさらには見ている参加者も応援し、自分も一歩を踏み出したくなる「日本まるごと元気作戦！」を目的として、日本全国6の地域が参加する「わくわくエンジンEXPO」を開催しました。

わくわくエンジンEXPO ～ 子どもたちが創り出す「まち・未来」～

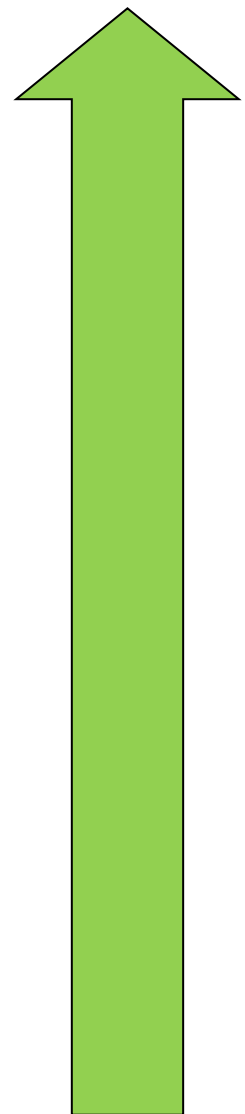
キーパーソン21が描く理想の社会



すべての人が自分を活かして
生き生きと仕事をして生きる



キャリア教育でつながる地域づくり～拡がりのステップ～



地域での自律、持続可能な体制へ

～対話型教育循環システムの構築～

STEP5 発表する・シェアする

STEP4 子どものやりたいを応援する

STEP3 わくわくエンジン®を引き出す

STEP2 プログラム“わくナビ”になる

STEP1 概念を理解する

実施概要

■開催日程：

2021年3月27日（土）、3月28日（日） 10時～16時30分

■実施形態：

オンライン実施（Youtubeライブによる配信）

■参加者：

【発表者】 島根県江津市 県立江津高等学校 生徒7名、
鳥取県大山町 Yotte 2名（加えては1名映像で参加）
新潟県新潟市 市立高志中等教育学校 生徒5名
滋賀県草津市 NPO法人くさつ未来プロジェクト 生徒3名、伴走者1名
沖縄県浦添市 森の子児童センター 生徒1名、伴走者4名
愛媛県上島町 県立弓削高等学校 生徒1名

東京都江東区有明 有明わくわくプロジェクト 保護者4名

【伴走者】 12名

【企業】 株式会社エヌアセットホールディングス
カシオ計算機株式会社
シナネンホールディングス株式会社
株式会社ユーグレナ2名 合計5名

【応援団】 12名（うち2名企業担当者と同一）

＼タイムテーブル／

	3/27(sat)	3/28(sun)	
10:00	オープニング	山口周 氏とトークセッション	10:00
10:30	植松 努 氏とトークセッション 「正解がない時代。子どもの可能性を 引き出すとは？」	「経済性から人間性の時代へ 何を追い求めて生きるのか」	11:30
12:00	島根県江津市	滋賀県草津市	12:30
13:00	鳥取県大山町	沖縄県浦添市	13:30
14:00	新潟県新潟市	愛媛県上島町	14:15
15:00	基トーク／東京江東区有明 自分費で・子育て・まち育で	子どもたちのやりたいを応援した大人 たちのリアルトーク(草津・浦添・弓削)	15:15
15:45	子どもたちのやりたいを応援した大人 たちのリアルトーク(江津・大山・新潟)	フィナーレ＆ロケット打上げ	16:00
16:30			16:30

＼スペシャルゲスト／

講演&代表朝山とのトークセッション&
ロケット打上げ(植松氏)があります。



朝山 あつこ
キーパーソン21代表



山口周 氏

「経済性から人間性
の時代へ 何を追い
求めて生きるのか」

＼寄付／



米国 コカ・コーラ財団
The Coca-Cola Foundation

参加地域



当日レポート ～1日目①～

タイトル	登壇・発表者	内容
思うは招く ロケット開発を 実現した原動力 とは	ゲスト登壇： 株式会社植松電機 植松努氏	植松努氏の幼少期からの体験を踏まえながら、子ども達の持つ可能性、好きなことに取り組むことの大切さや困難にぶつかった時の考え方などについてお話していただきました。後半の代表朝山とのトークセッションでは植松氏のわくわくエンジンも挙げながら、植松氏の願う社会の在り方について言及してました。
探究授業から始 まったわくわく プロジェクト7人 の活動	島根県立 江津高等学校 (生徒7名)	探究の授業として活動したわくわくプロジェクトについて、女子生徒7名からの発表。「わくわくエンジン®発見プログラムを市内の小中学校に普及・推進すること」を目的として活動した内容に加え、活動の中で感じた一人ひとりの変化や気付きについて紹介してくれました。 生徒の発表後の応援団タイムには、自ら動き成長したからこそ見えてきた新たな困難について応援団と生徒とのやり取りがあり、応援団から大人でも感じる困難を率直に伝えられながら、今後の更なる活動へのエールが送られました。
みんなのやさし さが溢れるyotte で成長していく 子どもたちの物 語	鳥取県大山町 Yotte (高校生1名 大学生1名 (※他 映像参加 1名)	子ども達の遊び場として地域に開かれた一軒家=Yotteに集まる高校生と大学生からの発表。学年も性別も超えて子ども達が集まれる場がなぜ生まれたのかのルーツや、その中で自発的に個々が行ってきた活動について発表者三者三様のわくわくエンジンとともに紹介がありました。 応援団からは、Yotteという場所が自治体からの提供ではなく子どもの声から生まれたことの価値や運営者が居心地の良い場所を自然体で創り出した姿勢が、子ども達のやってみようを促す場になっていることへの賞賛が伝えられました。

当日レポート ～1日目②～

タイトル	登壇・発表者	内容
一人ひとりが わくわくする 生徒会活動が SDG s へ	市立高志 中等教育学校 (生徒5名)	わくわくエンジンと出会った、生徒会で活動する生徒たちが登壇。コロナ禍だからこそ改めて気付いた自分にとっての学校の存在や、一步踏み出して行動したことで気付いたこと等について発表してくれました。自分軸から他者へ向けた活動や、挑戦し進化を愉しむ自分に気付き、校内の生徒にもそれを伝えたいという気持ちが伝わってくるプレゼンに、応援団から更なる発表者の気持ちの掘り下げの質問や今後のエールが送られました。
子育て 自分育て まち育て	有明わくわく プロジェクト (保護者4名)	4年に渡り自主的に継続活動している東京都江東区有明地域の保護者が登壇。プロジェクト内容の発表や、「夢！自分！発見プログラム」を自分の子どもが通う小学校に届ける大人たちの、関わる中で感じた子どもの変化や、自分自身の変化、気付きを生々の声で届けてくれました。まさに主役は子どもながらも、大人自身も学びの場となるプロジェクトの魅力により地域へ与える影響を語ってくれました。
子ども達の 一步を応援し た大人達のリ アルトーク	島根県江津市・ 鳥取県大山町・ 新潟県新潟市の 伴走した大人達	1日目の発表に関わった3地域の大人達が参加し、子ども達の発表を見守っての感想や伴走してきた中で見えた子ども達の変化についてトークを展開。各地域取組の母体も異なる中で、それぞれがどんなことを大切に子ども達を見守ったのか、「子どものやってみたい」を支援・後押しする重要性が共有されながら、各地域の持つリソースを生かしてそれをできる形で実践してきた様子が伝えられました。

当日レポート ～2日目①～

タイトル	登壇・発表者	内容
経済性からヒューマニティへ 山口周が語る教育と地域活性	ゲスト登壇者： 株式会社ライブニッツ 山口周氏	社会の変化を捉え、これからの時代に求められることについてご講演。時代の変遷とともにものの価値が変化していることを、事実からつかむ力が重要である。また問題に気付いて取り組めることに価値が生み出されるといふ、山口氏ならではの時代を見据えたメッセージを子どもたちに向けてお伝えいただきました。後半には代表朝山と、わくわくエンジンや原動力を駆動し、自分事化して取り組むことの大切さなどについてトークセッションを行いました。
それ、いいやん！ 地域のNPO のママたちからもらった自信！ KMP challenge ！	認定NPO法人 くさつ未来プロジェクト （生徒3名 伴走者1名）	子どもを抱っこする手はいくつあっても良いをモットーに育児サークルの運営を行うくさつ未来プロジェクトに集まる子ども達3名による発表。わくわくエンジンの発見から、原動力に突き動かされて行動するパワフルな様子、家族を巻き込みながらチャレンジする様子は見ている人にも元気を与える強さがありました。子どものやりたいを寄ってたかって応援する大人達の様子が伝わる発表となりました。
悩み、葛藤した あの時の出逢い→ 気づき→変化から 繋がった恩返しの 想い	沖縄県浦添市 森の子児童センター （高校生1名 伴走者4名）	森の子児童センターに12年通い、センターが第二の家庭としての居場所になる高校生による発表。「好きなものビンゴ」を通して知った自分の原動力や、本発表に向けた取り組みの中で改めて気付いた周囲の大人達の想いなどについて、過去の自分の体験を交えて赤裸々に語ってくれました。伴走者たるセンターの大人達も一緒に登壇し、彼女が自分を好きと言えるまでに温かく見守ってくれた周囲の大人達の存在の大きさが伝わってくる発表でした。

当日レポート ～1日目②～

タイトル	登壇・発表者	内容
温かな島育ち 島と世界の違い に気づいたこと	愛媛県立弓削高等学校 (生徒1名)	日頃学ぶ高校の一教室から、黒板全体を用いて発表。自分の原動力を発見するまでの活動や、原動力を知った後に更にどんな行動をしてきたか、今後の展望についてをプレゼンした。応援団には同世代の方や、地元愛媛出身で海外との活動をされている方々をお迎えし、島と世界の違いを楽しんで、行動を起こしたいと考え始めた発表者にとって、更なる活動の発展を示唆する刺激あるやり取りになっていました。
人づくりから 始まるサステイ ナブルな社会	株式会社エヌアセットホールディングス カシオ計算機株式会社 シナネンホールディングス株式会社 株式会社ユーグレナ2名 (計5名)	キーパーソン21が行う企業の子ども応援プロジェクトに参画あるいは、自ら会員となっている企業の方々にご参加いただきトークを行いました。それぞれの企業がキーパーソン21に関わるようになったきっかけや、活動を通して社員に見られる変化などお話いただくとともに、最後にはEXPOを通して感じた、子どもを中心として地域や学校、企業が連携する重要性について今後さらなる連携の可能性について言及しました。
子ども達の 一步を応援し た大人達のリ アルトーク	滋賀県草津市・ 沖縄県浦添市・ 愛媛県上島町の 伴走した大人達	2日目の発表に関わった3地域の大人達が参加し、当日の子ども達の発表の感想や伴走時の様子等についてトークを展開。 発表前日に、急に子ども自ら「発表時にこれをやりたい！」と言い出した子どもの変化や、人が次第に変わっていく際に支えとなる周囲を取り囲む大人の存在などについてそれぞれがEXPOへの活動を通じて感じたことを語ってくれました。

当日レポート ～2日目③～

タイトル	登壇・発表者	内容
フィナーレ	株式会社植松電機 植松努氏 2日間のEXPO発表者	北海道赤平市にある植松電機と中継を繋ぎ、わくわくエンジン搭載のロケット打ち上げを行いました。 植松氏より、子ども達には発表してくれた「わくわく」を大切にしてほしいということ、大人には子ども達がわくわくを実現できるように支えて欲しいというメッセージが伝えられました。科学が進歩しているからこそ、子ども達は大人を超えて羽ばたいていける存在であり、大人は子どもたちを押し上げ、サポートすることが重要であると言及されました。最後には1日目、2日目に発表した子ども達も画面に登場し、改めて自分のわくわくエンジンを一人ひとりが宣言し、その一人ひとりのわくわくエンジンを搭載したロケットを打ちあがり、「わくわく」が実現することと思いつきながら2日間の全プログラムを終演しました。

成果 1

■参加・視聴数

本EXPOは、2021年2月18日から受付を開始。

参加申込は無料にて、申込者には開催3日前に当日視聴可能なYoutubeライブの配信URLをご案内した。

アーカイブ配信は、開催1週間後の2021年4月4日まで視聴可能として公開した。

区分		人数（累計）	備考
申込者数	開催前申し込み者数	1,238名	3/28 16時時点
	見逃し配信申込	1,459名	4/3まで受付延長
視聴者数	3月27日分（1日目）	3,095名	4/5 時点
	3月28日分（2日目）	2,486名	

■申込者の居住地域

合計		1459																								
海外		28	北海道・東北		146	関東		674	中部・北陸		32	東海		104	近畿		260	四国		34	中国		65	九州・沖縄		116
アメリカ	14	北海道	65	茨城県	16	石川県	9	愛知県	59	京都府	29	徳島県	5	岡山県	10	沖縄県	46									
オーストラリア	1	岩手県	9	埼玉県	77	長野県	12	岐阜県	7	三重県	6	愛媛県	21	広島県	13	熊本県	8									
シンガポール	1	宮城県	6	神奈川県	166	富山県	2	静岡県	38	滋賀県	95	香川県	5	山口県	5	鹿児島県	7									
カナダ	1	新潟県	47	千葉県	64	福井県	4			大阪府	58	高知県	3	鳥取県	8	長崎県	7									
不明	10	福島県	9	東京都	335	山梨県	5			奈良県	13			島根県	29	福岡県	34									
ドイツ	1	秋田県	5	栃木県	7					兵庫県	57					宮崎県	8									
		山形県	2	群馬県	9					和歌山県	2					佐賀県	2									
		青森県	3													大分県	4									

本わくわくエンジンEXPOに登壇した子どもおよび伴走した大人に対して、アンケート調査を実施した。
発表者となった子ども達にはその変化を見るための、EXPOへの取り組みの前とEXPO参加後にWEBにて行い、
伴走者である大人に対しては、EXPO参加後に自由記述の調査を行った。

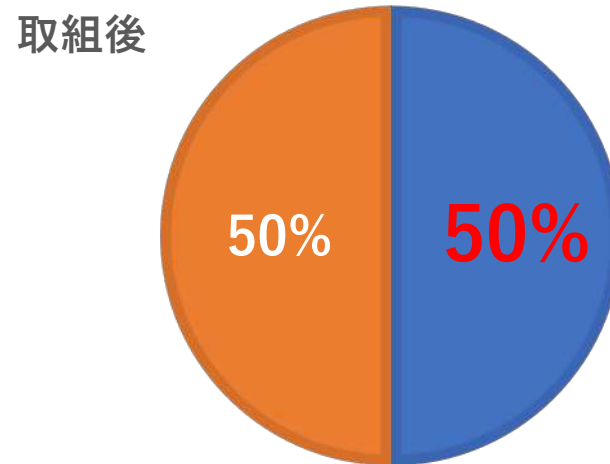
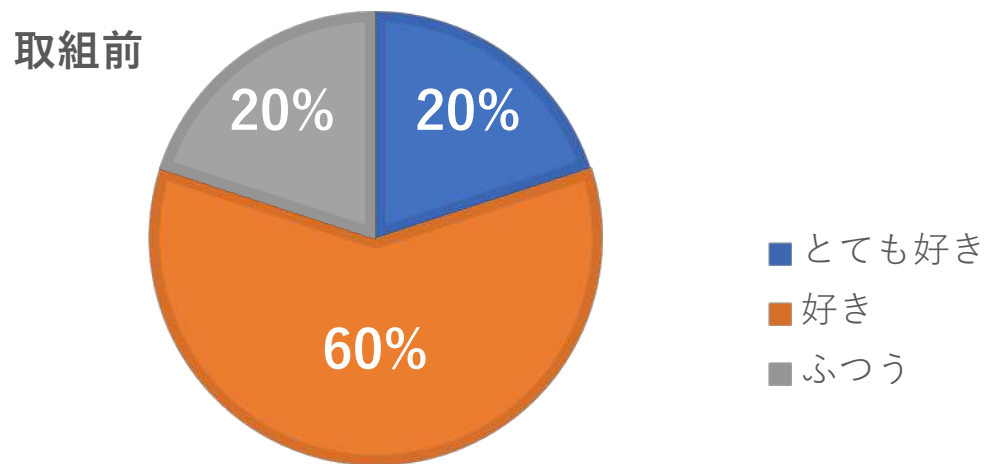
【データ元】

実施日： 取組前 2021年1月29日～
取組後 2021年3月28日～

対 象： 子ども わくわくエンジンEXPO登壇発表者 10名
大 人 伴走者 12名

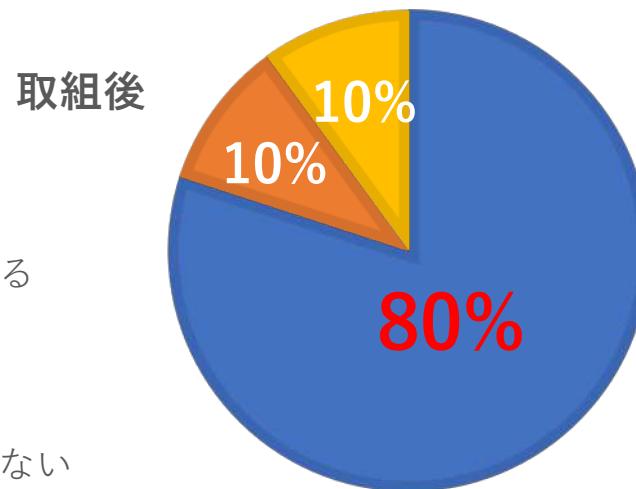
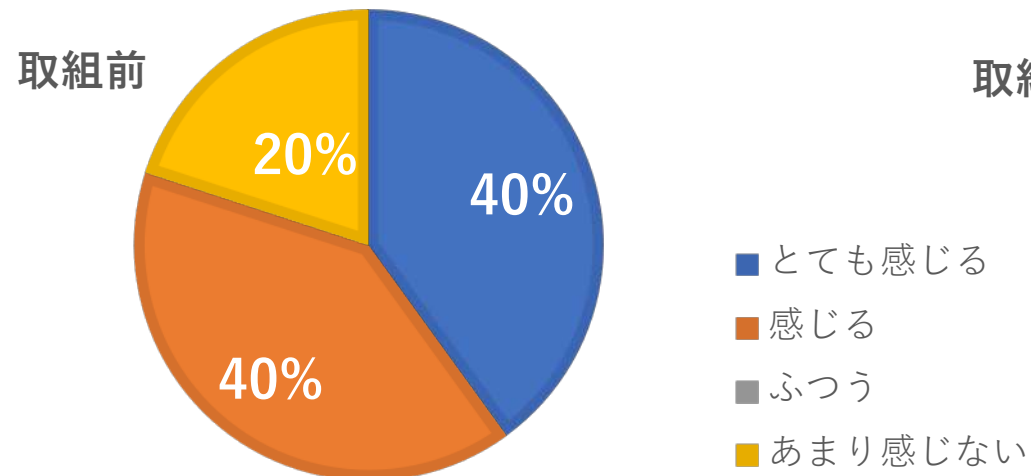
成果 1. 発表した子どものアンケート結果①

Q1. 今の自分が好きですか。



取組前後の比較にて、取組後の結果では、「今の自分を**「とても好き」と答えた数が20%から50%に増加**、人数にして3名増加するとともに、「ふつう」と回答した人数も0名となり、全体として底上げ結果が見られる。
自己肯定感の向上への寄与がみられる。

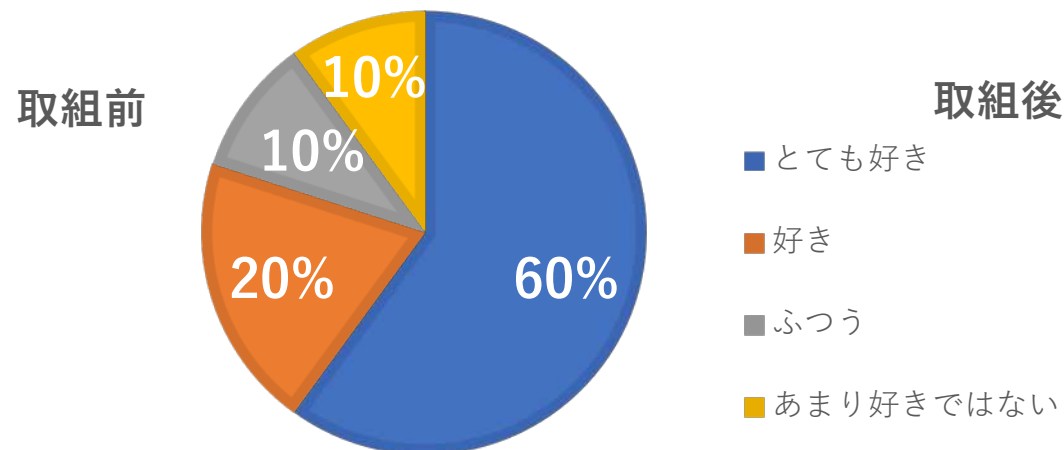
Q2. まちとのつながりを感じますか。



まちとのつながりを**「とても感じる」という回答が40%から80%と倍になり大幅に増加**している。
まちに対する愛着感情にプラスの効果を発揮している。

成果 1. 発表した子どものアンケート結果②

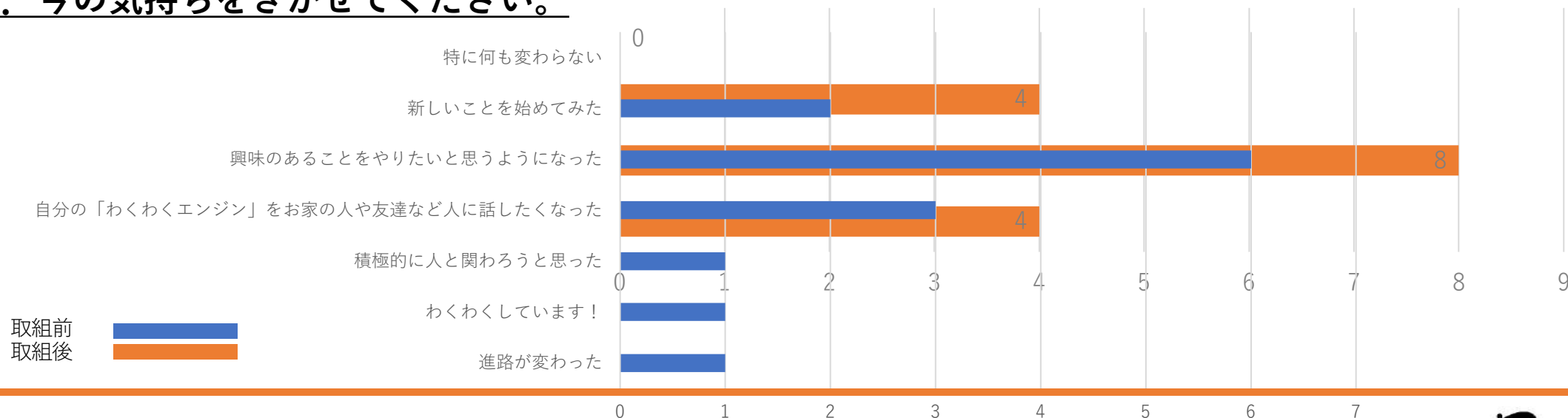
Q3. 自分のまちに対する気持ちを教えてください。



わくわくエンジンを見つけた後、何かしらの変化が生じている。

一歩踏み出した行動の結果、興味あることに積極的に行動するようになる傾向がみられる。

Q4. 今の気持ちをきかせてください。



成果 1. 発表した子どものアンケート結果③

Q5. EXPOに参加して、気持ちや行動にどのような変化がありましたか。

自分でもやろうと思えば出来るんだと分かり、自分が好きになった。

わくわくエンジンが変わった。

言語化する事が前より得意になった。

考えすぎてなかなか行動におこすことができなかったのですが、思いついたらとりあえずやってみよう！ということができるようになってきました。

自分で行動するようになった。

いろんなことに積極的に参加してみようと思った。

もっと自分のやりたいことを進んでやってみたいと思った。

やってみたいことを家族に言うようになった。

あまり体験できないことを体験できて自分の未来に勇気が持てました！

やりたいことがわかった。

成果 1. 発表した子どものアンケート結果④

Q6.これからやってみたいと思うことは何ですか。（すぐにできそうなことでも、できそうにないと思うことでもOK!）

わくわくエンジン発見プロジェクトの開催

TOEICを受けてみたい！お父さんが受けてて、900以上スコア出してて、やって見たいと思ったからです

子どもたちと楽器（ギターなど）を楽しむイベントをしたいです。また、子どもたちが大学生の家に1日ホームステイして、大学生の一人暮らしってどんなのなんだろうというのを体験できることをしてみたいです。

地域に貢献！！

ボランティアでも人の手伝いでも人に喜んでもらえること

英語の勉強！

のど自慢に出場、一人旅

学校を卒業して専門学校に入学する

宿題サポート

成果2. 伴走した大人のアンケート結果①

Q1.子どもの応援やサポートをして、子どもに変化はありましたか。

はじめは受動的だった生徒たち。

エキスポ当日が近づくにつれ、気づけば主体性を持って取り組むことができるようになっていた。

先に頭で考えてしまってなかなか行動にうつせなかった大学生が、自ら企画したことを実施することで、大きな自信が持てた。

小さいこと、しょーもないと思うことでもとりあえず「やってみる」ことで頭の中でぐるぐる考えていたのでは見えない景色が見えることに気づいたのかなと思います。

「やったことの内容や成果」なんてどうでもよくて、とにかく「やった」ことが自信になったと思います。

自分に自信を持つようになり、自分が好きと言うようになりました。また、人の目を以前より気にしなくなりました。

始めは表面的な、自分の事も分かっていないようなところから、最後にはとても具体的に自分の思いを語れるようになった。どんどん自信もついてきて、表情も言動も明るいものになっていった。

自分のために動いている大人たちを目の当たりにして、自信がついたと共に、更に意識して自分のわくわくを発揮しているように感じます。笑顔で楽しんでいる姿に嬉しくなります。

本気で楽しんでいた。発表準備は大変だったと思うが大変さを感じていない様子だった。

前向きに考えられるようになった。自分の気持ちを言語化できるようになった。計画性が身についてきた。など挙げればキリがないくらい変わったと思います。

成果2. 伴走した大人のアンケート結果②

Q2.自分自身について変化はありましたか。

もっと、こどもを応援してあげたいと思った

〇〇な子と色眼鏡で子どもを見ずに目の前の子をそのまま受け入れる事の大切さを再確認できた。
大人が本気で向き合えば子どもには伝わる事を実感できた。

こどもの話を遮らないで聞けるようになりました。

生徒会の子ども達と深くつきあう、初めての経験だった。短期間でもここまで子どもは成長するのだと気付くことができた。

今回のプログラムをきっかけに、子ども達へ行事を提供する上で、一人ひとりのわくわくは何だろうと更に意識するようになりました。行事だけでなく日々の活動や遊びに関しても子ども達のキラキラしている姿をみて、わくわくがあふれているなと本来の児童館の在り方を（自己肯定感へつながる体験や健全育成にあたる内容において）改めて考えさせられました。そして、発表した彼女に対しても、伝えていきたいことが膨らみ将来地域で活躍するであろう妄想をわくわくしながら感じています。

「任せる」ことが大事だと感じた。今までは、指導した分だけ成長すると考えていたが見守ることの重要性を再確認できた。

発表者の気持ちを知って、その気持ちを大切にしようと気が引き締まった。また、今までの職員の行動がプラスに働いたことに嬉しく思った。

以前と変わらず、生徒たちと丁寧に真摯に向き合ってきたつもりです。
その接し方に対して、これでいいのだと自信が持てたことが変化になるかもしれません。

成果2. 伴走した大人のアンケート結果③

Q3. 地域への想いに変化はありましたか。

地域というより、そこに住む1人1人のために、これからも活動していこうという思いを強くした。

自分の変化は特にありません。

今までやってきたことの方向性、やり方でよかったんじゃないかと思えました。
と同時に、大人っていいな！と思って欲しいと思いながら伴走していました。

とても恵まれた環境で生活できていると思う。

何かあったら助けて！と言える、そしてこちらからも手を差しのべる事ができる！

率直に安心（心強く）思いました。

仕事で不登校、課題を抱える児童生徒と関わっていますが、行政が関われるのは中学生までです。

その後が気にかかりますが直接関わることは難しい状況です。

今回、森の子に関われた事で、地域力の強さを改めて実感でき、繋がれる！切れ目のない支援ができる！
残りの校区もそうなって欲しいと思いました。

協力してくださる方がたくさんいらっしゃる事が実感できました。

成果2. 伴走した大人のアンケート結果④

Q3. 地域への想いに変化はありましたか。

手をさしのべてくれる仲間に出られていることを強く感じ、転勤でたまたま住むことになった草津に愛着が持てるようになりました。

改めて、学校と地域は密接に関わり合っていて、子どもの成長のためにも我々がより深く知っていかなければいけないものだと感じた。

地域との連携をする中での私の課題の中に、人が変わらない（変わらない事での良さもありますが・・・）考え方や関わり方に正直やりづらさを感じることもあります。しかし今回のプログラムをきっかけに児童センターとしての役割がこれかれの子ども達への人生に繋がる事を実感したうえで、ここが出来ることは何なのかと改めて考えさせられ、どうしていくべきなのかという根っこの部分が出来たかのように感じます。ここでの主役は子ども達！その子ども達が地元を好きになり、ここで活躍したいという若者が増えることで地域の活性化に繋がるとともに、地域に住んでいる方々と連携することで子育て世帯や困り感のある家庭の把握、支援に繋がり、生きる力が備わる、更に人生の楽しみが増え（楽しむ方法を知る）わくわくが自然と活かせる子ども達が育っていく事に期待しています。若者や子ども達の声を実現できる大人たちが増えるような行事を計画し、連携しやすい地域作りができる居場所、役割として今後も児童センター運営を担っていきたいと思います。

生徒が変革を起こすと地域からのフィードバックがあり、そのフィードバックが生徒をさらに成長させると思います。地域の隠れた人財を教育に還元していきたいです。

成果2. 伴走した大人のアンケート結果⑤

Q4. 参加した感想（抜粋）

伴走の仕方は人それぞれ違うと思いますがどこまで、どのくらい伴走するのかってとても難しい判断だと思います。

このEXPOのお陰で、日々疎かだった子どもの不安定な気持ちに寄り添うことができたと思います。伴走はしんどかったですが、日に日に自信に満ちてくる子どもの顔をみていると、そのしんどさもどこかにいってしまいました。この経験を忘れず、ダメダメを言わないで伴走を続けて行きたいと思います。

とても貴重な経験となりました。
新生徒会のスタートとして、経験と自信をつけさせていただきありがとうございました。

自分のわくわくエンジンを知ったことで、改めて自分理解が出来ました。また、これからの人生を考えるきっかけになりました。子育ての部分でわが子への見方、そして接し方にも意識が変わりました。主役は自分という事を抑え接する事を心掛け、子育て、仕事を楽しみたいと思います。（家でも伴走者のような・・・）わが子の未来も楽しみです。
今まで結婚・出産・子育てと突っ走ってきたことでなかなかゆっくり考えることを後回しにしていたましたが、自分自身の家族、子ども達を含めどんな人生にするのか、1度しかない人生を楽しみながらこれからも成長していけたらなと思います。

わくわくエンジンを見つけて一歩踏み出した子ども達、そして地域の大人達に伴走されてEXPOでの発表に向けて取り組んだことの成果の一部として、アンケートより下記の点が浮かび上がりました。

■子ども達

「自分をすき」と
言える自己肯定感の
向上

地域への愛着に
関するプラスの効果

行動力や
積極性の向上

■伴走した大人達

子どもと本気で
向き合うことの
重要性を再認識

学校や地域、行政の
連携の大切さ

地域への愛着に
関するプラスの効果

参加者アンケート（抜粋）

ゲストスピーカーのお二人のお話は、多くの人に勇気とエネルギーを与えられたと思います。私自身、話を聞いて体が熱くなるのを感じました。動き出したいという衝動が湧き上がってきました。気づきとしては、誰かのわくわくを聴くことによっても、ワクワクが伝播し共鳴する。

各地域の発表では、子供達と伴走者の協力がお互いのわくわくを増幅しあうのだと感じました。その関わり方は多様でも、子供たちがイキイキしているということを見ることができました。

そして大人トーク、企業トークでわくわくエンジンのパワーを改めて強く、強く感じました。熱く語るみなさんの姿は、この社会おもしろい！って希望になると思います。

植松さん、山口さんの講演はそれぞれの視点でこれから必要とされる考え方を教えていただき参考になりました。未来に対して前向きな気持ちになりました。

子供たちのチャレンジと発表はどれも素晴らしく、変化や成長の度合いに驚きました。自信に満ちた姿から私も元気をもらいました。また、子供たちを見守る周りの大人たちへも変化を与えるパワフルさを感じました。

企業トークは、「大人が元気&子供が元気&地域も企業も元気」をイメージできる素敵なお話でした。企業トークに参加されていた企業のようなスタンスがもっともっと増えて行けば、社会全体が元気になり、朝山さんのおっしゃる「日本まるごと元気作戦」に繋がっていくのだな、と思いました。

参加者アンケート（抜粋）

植松さんのお話しにまず心を掴まれ、子どもたちのきらきらした姿に心が動き、山口さんのお話しに頭と心を融合させる。五感フル活用の2日間でした。

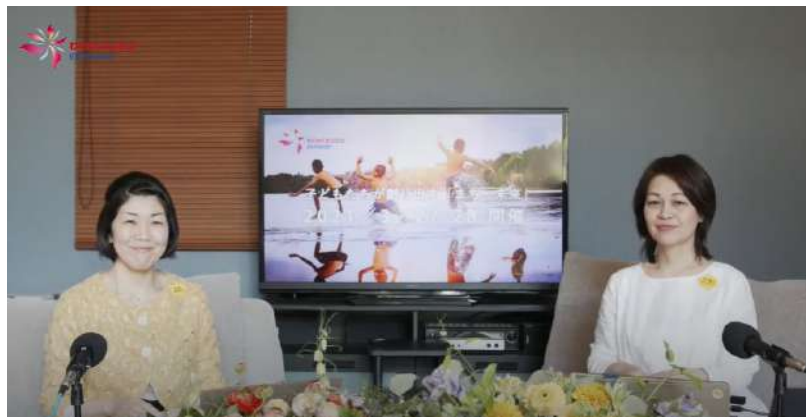
普段は企業の人事をしており、まもなく新卒を迎えます。

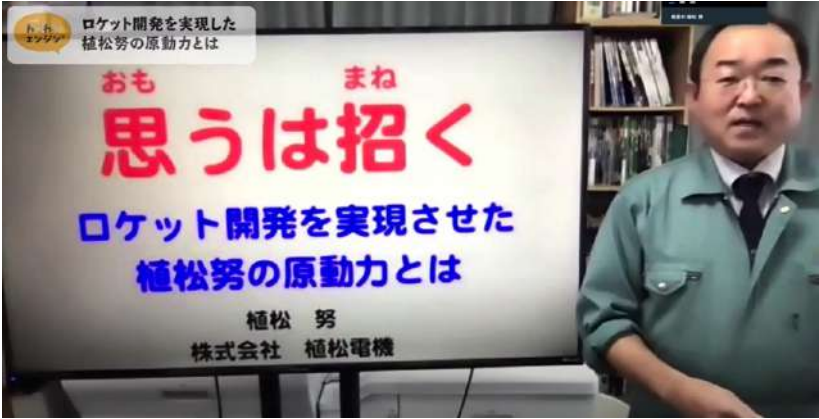
大人の社会（社会人）でも「わくわくエンジン」を持ち続けられるし、持ち続けようと思える機会を作っていきたいと思います。ありがとうございました。

それぞれのワクワクエンジンを楽しそうに話してくださったことを聞くことができ日本の明るいミライを感じることができました！子どもだけでなく、大人もワクワクエンジンを見つけて子どもたちへの支援と合わせて自己実現へと進む社会を望みます。

ご登壇された皆様へ

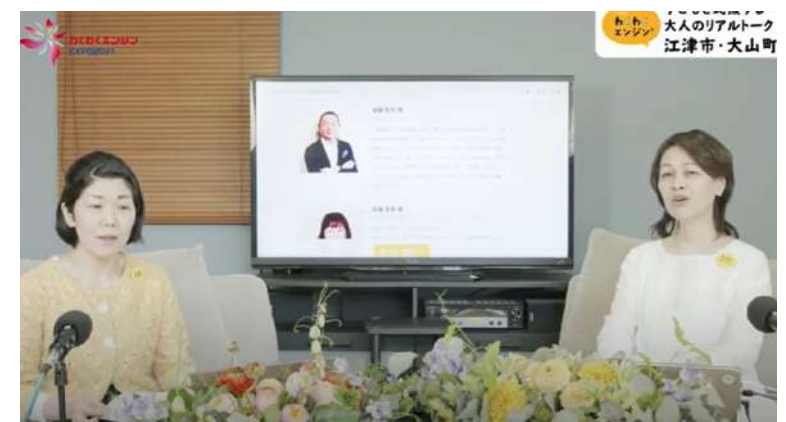
お話を伺って、パワーをいただきました。ありがとうございました。これからもご活躍をお祈りしています。私も、いただいた勇気をとなりの人へと発信していきます。♪♪



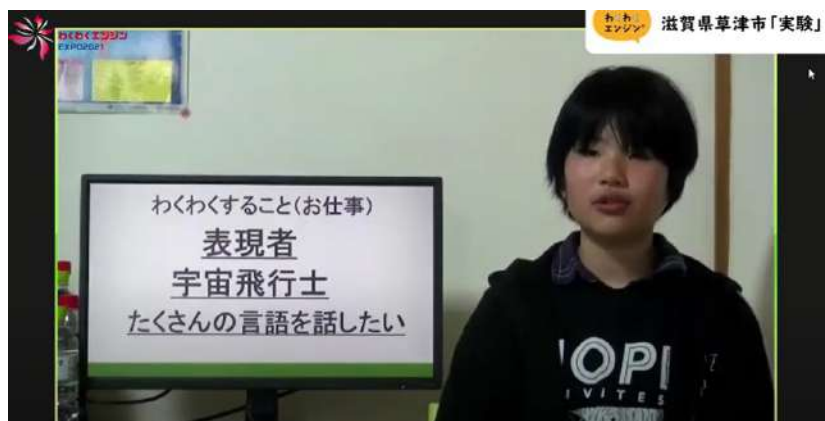






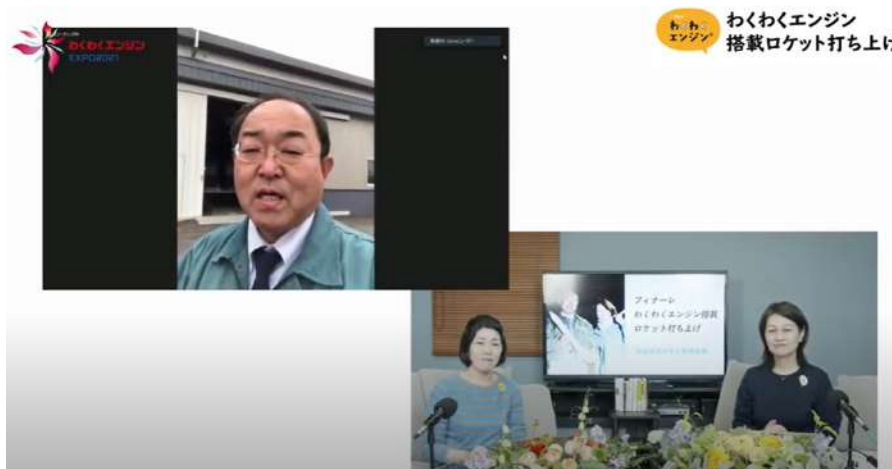












わくわくエンジン
搭載ロケット打ち上げ



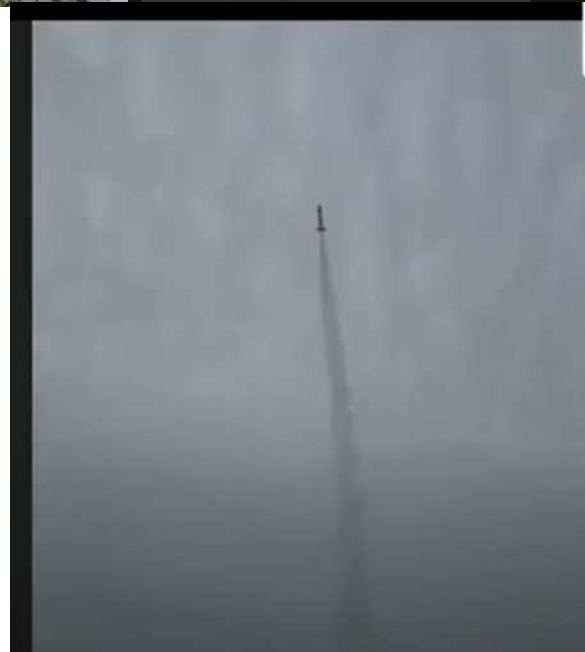
わくわくエンジン
搭載ロケット打ち上げ



わくわくエンジン
搭載ロケット打ち上げ



わくわくエンジン
搭載ロケット打ち上げ



わくわくエンジン
搭載ロケット打ち上げ



わくわくエンジン
搭載ロケット打ち上げ



キーパーソン21が大切にしている「わくわくエンジン®」

わくわく
エンジン®

本当に大切にしたいことに気づいた人は、
失敗しても立ち直り、自分らしい人生を歩いていける。

自分らしさに気づいたとき、今まで気づかなかった何かを見つけたとき、
子どもも大人も、自ら動きださずにはいられない自分だけの原動力に気づきます。
それを、私たちは「わくわくエンジン®」と呼んでいます。

 **Key Person21**